

「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会委員発言要旨  
－産業振興部会－

開催日：平成22年7月15日（木）10：00～12：00  
場所：トキハ会館 カトレア  
出席委員：矢野部会長、太田委員、甲斐委員、小手川委員  
二宮委員、林委員、藤澤委員、渡邊委員

テーマ1 長期総合計画「安心・活力・発展プラン2005」の評価  
と課題について

〔議事概要〕

(1) 計画期間の前半を振り返って

- ・指標の中には、その指標で施策を評価することが適当か疑問の残るものもある。
- ・昨年度の実績のみを示すのではなく、5年間でどうだったのかを数字で示す必要があるのではないか。
- ・他県との比較も重要である。目標を達成したと言っても、他県よりも悪い状況であれば、それで十分とは言い難い。
- ・現在の施策1つ1つは間違いではないが、流通の激変にマッチしているのか疑問なものもある。

(2) 新たな政策・施策課題について

- ・口蹄疫などの新たな課題が生じた場合、財源が不足するのではないかと懸念がある。新たな課題に対応できるだけの財源を十分に確保しておくことも重要である。
- ・乾燥材などは、どこに売るかも重要であり、国際標準規格であることをPRしながら、実際に乾燥材を活用する一級建築士などに売り込むことも検討してはどうか。
- ・水産試験場や生産者、加工業者がもっと情報共有することで、生産物に更なる付加価値を付けるような工夫をすることが課題である。

(3) 今後の方向性について

- ・財政状況が悪化する中、知恵を出して政策を実施することが肝要である。
- ・目標を達成した項目についても、将来を見据えるとこの数字に甘んじるわけにはいかないものもある。
- ・園芸10品目は、今後、どこに力を入れていくのか、マーケットをどこに求めるのかをよく見極めることが重要である。
- ・近年は中国マーケットが非常に大きくなっており、中国にどれだけの打ち込みをかけるのかは重要である。
- ・中国等の新たな購買層を誘致することは非常に効果的と思われ、今後の新たなテーマになりうるものと考えられる。